

美術館と俳句の寺

忌部別当
東福寺

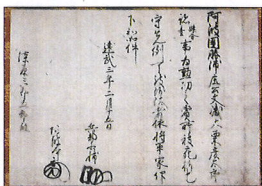


新四国曼荼羅霊場第70番札所
端山四国八十八ヶ所霊場第29番札所



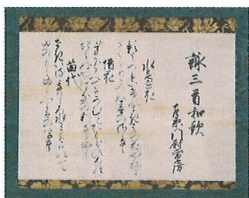
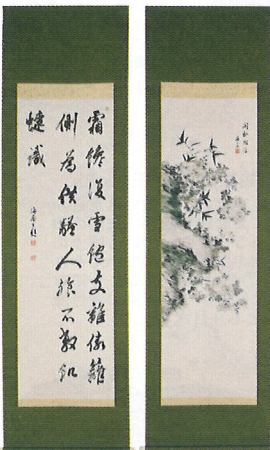
◀美術館 Museum

当館は、当寺所蔵の文化財、襖絵等を保存、展示公開して、広く檀信徒並びに、一般の皆様方の文化の向上に寄与する目的で、平成2(1990)年11月に建設した。当館の特色は、阿波藩の御用絵師、書家を中心に、仏画、蒔絵、茶道関係を蔵し100点余りを、常設展示している。所蔵品は、仏画、絵画、書、工芸品等400余点。古文書200余点。



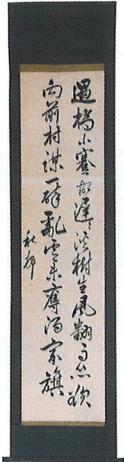
◀細川文書 Hosokawa-Monjo

後醍醐天皇により、建武の中興(1333年)が始められた時、足利尊氏は細川和氏を阿波守に推挙し、細川定禅を讃岐に居住させた。足利尊氏は、建武政権に離反して九州に西走する時、阿波守細川和氏と足利尊氏陣営の軍事を司る兵部少輔細川顕氏に、国において勲功の軽重に応じて恩賞を行うように仰せ付けられた建武3(1336)年2月15日の文書。



▲飯尾 常房 Inoo Tunefusa (1422~1485)

祖先是京都の三善氏で鎌倉の間注所の執事であったが、一族の政常が麻植郡麻植荘の地頭となり、飯尾氏と称した。常房は將軍足利義政に右筆で仕え、また阿波守第七代細川成之に仕え、当代一流の歌人、書家であった。



▲柴 秋邨 Siba Syuson (1830~1871)

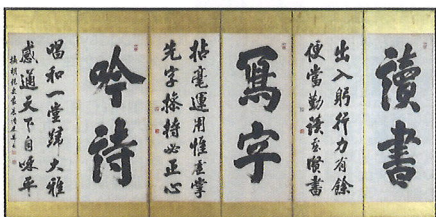
徳島市元町の人。新居水竹に入門、後江戸の大沼枕山、羽倉簡堂、大阪の広瀬旭荘に師事、秋邨の号を授かり、塾長となる。後帰郷藩の儒官と洋学校の正局務を兼ねた。

▲貫名 松翁 Nukina Suuo (1778~1863)

徳島の人。初め矢野栄教に画を学び、後長崎で日高徹翁に南画を学ぶ。書を西宣行に師事、高野山で空海の真跡に啓発される。幕末の三筆の一人。

閑々子▶

Kankansi(1752~1827)
三好市池田町の人。名は天如、字は峻山、良夢。幼少で仏門に入り、慈雲律師に師事。後小松島中田に閑居、閑々子と号した。



◀市河 米庵 Itikawa Beian (1779~1858)

江戸の人。儒者市河寬斎の子。名を三亥、字は孔陽また小春といい、米庵はその号。染齋、金洞山人などの別号もある。幼時より父の薫育を受け、林述齋や柴栗山から朱子学と書を学び、とくに書は、中国宋代の米芾に傾倒した。幕末の三筆の一人。



渡辺 広輝 画▶



▲中山 養福 Nakayama Osayosi (1808~1849)

江戸で出生、狩野晴川院養信に入門。後藩の絵師となり、徳島住吉島に住む。橋本雅邦と共に狩野雅信にも学ぶ。花鳥画に長じていた。



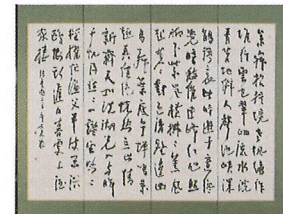
吉成 葭亭▶

Yosinari Katei(1807~1859)
徳島市助任本町の人。名は亀次郎、号は葭亭。吹簫の名人であった。鈴江貫中の父孝之助に画を学び、四条派の画をよくし、特に浮世絵風の人物画に長じていた。牛若(義経)を抱く常盤御前が、今若と乙若と共に描かれている。



◀小坂 奇石 Kosaka Kiseki (1901~1991)

海部郡美波町の人。大正6(1917)年黒木栞石に師事。昭和31(1956)年日展審査員、日展参与、参事となる。璞社主宰、日展芸術院賞、恩賜賞、勲三等瑞宝章。昭和27(1952)年日展の展覧作品。

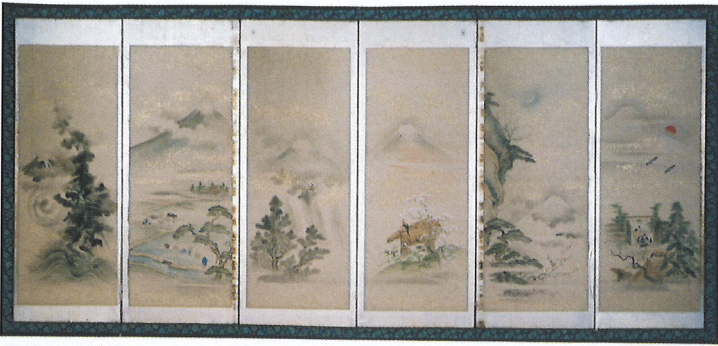


四季の花鳥



◀森 魚淵 Mori Nabuti (1830~1909)

徳島の人。名は宇吉、号は初め美明、後魚淵。9才の時守住貫魚に入門、後各地を周遊した。貫魚門人中最も傑出した画人である。明治15(1882)、17年の内国絵画共进会で褒状を受ける。その技が認められ、同26年京都の中学校毛筆画教科書の版下を画く。当寺襖絵の一部。



▲富士の四季

渡辺 広輝 Watanabe Hiroteru(1778~1838)

阿波市市場町の人。初め藩の絵師矢野栄教に師事、寛政8(1796)年幕府の絵師住吉内記広行に入門、後住吉広貴(広定)の後見、文化6(1809)年藩の絵師、守住貫魚、鈴江貫中、佐香貫古を育成、画風は住吉派の気品のある細密描写、歴史画、山水、花鳥人物を得意とした。



▲狩野 典信 Kanou Mitinobu (1730~1790)

江戸の人。江戸幕府御絵師。名は庄三郎、号は栄川、栄川院、白玉斎。父は狩野古信で、子に狩野惟信がいる。木挽町狩野派6代目の絵師である。門人に藩絵師の矢野栄教、河野栄寿、佐々木惟照がいる。



▲河野 栄寿 Kawano Eijyu (生没年不詳)

徳島の人。明和元(1764)年矢野栄教と共に狩野典信に入門。明和4(1767)年藩絵師となる。阿波探幽といわれ、典雄、栄樹、栄寿と号す。



▲矢野 栄教 Yano Eikyō (1730~1799)

徳島の人。宝暦13(1763)年徳川将軍へ献上画を描く。翌年幕府絵師狩野栄川院典信に入門、同日栄橋拜命、明和4(1767)年藩絵師、安永4(1775)年栄教と改名、通称典博。



▲板絵 Itae

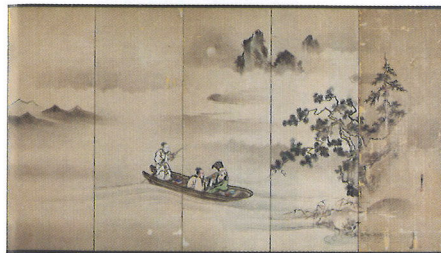
江戸初期 17c 徳島城西の丸御殿に入っていたと伝わる、杉の一枚板戸。太陽に鷹画、滝に獅子画



▲富士の四季

守住 貫魚 Morizumi Tunara(1809~1892)

徳島市明神町の人。幼名は伸美、名は貫魚、字は士濟、通称徳次郎。号は是姓斎、回春斎、輝美、定輝。16才で渡辺広輝に10年間師事、後江戸に行き住吉広定に入門。明治13(1880)年に大阪に移住、同17(1884)年の第2回内国絵画共進会で金賞受賞。後審査委員、帝室技芸員となり、日本画壇の重鎮となる。この画は師広輝の富士の四季を模したものである。



▲佐々木 惟照 Sasaki Koreteru (生没年不詳)

徳島の人。号は養郭、澤龍斎。狩野典信、惟信に師事。およそ寛政期(1789~1800)に活躍。



▲壺 Tubo

西塚 栄治 Nisizuka Eiji (1943~2009)

輪島市生まれ。父誠一に師事。昭和44(1969)年第2回日展(改組日展)初入選、以後連続出品し、同55年・平成5(1993)年特選受賞。日展会員。日本現代工芸美術展では、昭和44年現代工芸賞、同46年十周年記念賞、同53年会員賞受賞。高さ35.5cm。



▲飾り箱 Kazaribako 池口 美樹 Ikeguti Miki (1974~)

輪島市生まれ。号は香風。日展作家の崎田宏に師事。平成13(2001)年池口蒔絵工房設立。



▲棗 Natume 一后一兆

Itigou Ittyou(898~1991) 石川県生まれ。輪島塗最高峰と言われる蒔絵師。

▲輪島塗 金剛界大日如来・釈迦十六善神・胎藏界大日如来

Wajimanuri KongoukaiDainitinyorai・Syakajurokuzenjin・TaizoukaiDainitinyorai 若島 宗齋 Wakasima Sousai(1940~2012)

輪島市生まれ。本名 丈夫(たけし)。若島登に師事。全日本総合芸術協会理事、新院展理事を歴任。輪島塗では、唯一人の仏師である。金胎大日如来 161cm×65.5cm釈迦十六善神 170cm×79cm



▲守住貫魚画



◀野口小蘋 Noguti Syouhin (1847~1917)

吉野川市鴨島町の人。文久3(1863)年に京都に行き、漢学と書を小林卓斎、南画を日根対山に学び、明治4(1871)年に東京に行き詩文を岡本黄石、小野湖山に学ぶ。同10年に滋賀県の野口正章と結婚して野口姓になり、同37年女性として初めての帝室技芸員となり、帝展、文展の審査員、明治大正の女流南画家の代表者となる。

▶広島 晃甫 Hiroshima Kouho (1889~1951)

徳島市島田町の人、明治45(1912)年東京美術学校卒業、大正8(1919)年第一回帝展特選、後帝展、文展の審査員、版画に貢献し、晩年混入。



◀花密陀絵蒔絵菓子盆

Hana-Mitudae-Makie-Kasibon

谷田 忠兵衛 Tanida Tyuubei (?~1710)

蒔絵師。名は定茂。元、京都京極若狭守の浪人。江戸に居たが、藩主綱通に召され、藩の絵師となったが、彼の作品は、蒔絵として有名で、独特の色漆絵は、現在も谷田蒔絵として珍重されている。漆では難しい白や桃色を表現し、漆絵に密陀絵を加味したものと思われる。



八仙人



十六羅漢



▲三好 賢古 Miyosi Katahuru(1839~1919)

板野郡藍住町の人。号は竹香、青蓮子と称した。14才で守住貫魚画に入門、後、住吉広賢に入門。又、高野山で仏画を研修、指画にも長じていた。明治初年に貞光で寄寓。各地に遊歴し、勝海舟、山岡鉄舟、松方正義に知遇を得ていた。当寺襷絵十六羅漢、八仙人図の一部。神戸で没した。



▲千 利休 Senno Rikyu (1522~1591)

堺の人。千家の祖。納屋衆田中与兵衛の子、幼名は与四郎、名は宗易、号は抛斎、利休、利休居士。茶の湯を北向道陳、後に武野紹鷗に学ぶ。わび茶(草庵の小座敷の茶の湯)を基調とし、茶の湯の体系化を大成する。信長、秀吉に仕え、天正13(1585)年正親町天皇より「利休居士」号を賜り、天下一宗匠と称された。のち、秀吉の怒りにふれ自刃した。



▲南天の中柱 Nanten-no-Nakabasira 書院10畳の間の床脇に中柱として南天を使う。幹周り24cm。



◀黒釉毫斑碗 kokuyutogohanwan 南宋時代初期 13c

中国福建省の建寧で喫茶の器物に黒釉が厚めにかけられ、鉄の結晶

が筋目に出来た建寧天目茶碗という。釉の斑文の状態により、曜変、油滴、禾目と称し、本碗は禾目天目茶碗。



▲四耳茶壺 古丹波 shiji-chatubo kotanba 桃山時代16c

桃山時代以前の丹波の古陶。この壺は紐土作りで、口は垂直に立上がり横に反外す玉縁状の口縁となり、肩は撫で肩で四耳をつける。胴は丹波焼き特有の猫かきがある。また、底部に口口口の軸受けの下駄印がある。



▲小堀 遠州 Kobori Ensyu (1579~1647)

近江の人。遠州流の祖。伏見奉行、遠州守。豊臣秀長の家老小堀新介政次の子。名は正一、後政一、字は作助、通称遠州。号は弧蓬庵、宗甫、大有、転合庵。徳川家康、秀忠、家光に仕え、作事奉行を勤める。千利休、古田織部と共に三大茶人と称され、遠州流茶道を興し、その茶風好みは綺麗さびと評された。定家流の書に優れ、和歌もよくした。



▲屈輪堆朱菓子器 Kurituisuyukasiki 明時代

多色の漆を塗り重ねて厚い層を作り、これに文様を彫り出した彫り漆のうち、表面が、朱漆なので堆朱と呼ばれる。図柄は、屈輪(くり)文といわれるもので、中国の漆芸の技法であり、唐草や渦のような形の名称である。



◀茶釜 Chagama 角谷一圭 Kakutani Ikkei (1904~1999)

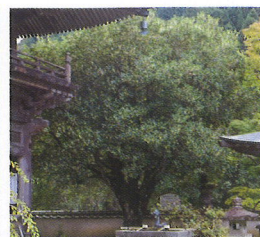
大阪市生まれ。釜師。昭和53(1978)年 茶の湯釜の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定。



▲金剛界曼荼羅 Kongoukaimandara
金剛界曼荼羅は「金剛頂經」を典拠に九会に区分され、上段中央に大日如来を配し、1461尊が描かれている。これらは密教の真理の世界を仏・菩薩・明王・天などの姿をかりて、絵画的に表現したものである。



▲胎藏界曼荼羅 Taizoukaimandara
江戸時代 19c
胎藏界曼荼羅は、「大日經」を典拠として大日如来を中心に十三大院に分けられ、現図曼荼羅は十二大院に画かれ、およそ409尊又は414尊描かれている。金胎共弘化元(1844)年作。



▲銀モクセイ Ginmokusei
町指定天然記念物
高さ6m 幹周り1.7m 根周り4m
平成18(2006)年6月1日指定。



◀請雨曼荼羅 Syouumandara

室町時代 16c

本図は、雨乞いの本尊で、平安初期における天台系室生寺流龍神信仰を色濃く反映した古様の請雨曼荼羅である。図様は、釈迦如来を中心に梵天、帝釈天、四天王、上部に風神、雷神、下部に竜王が画かれる。雨乞いのために画かれた他に類例のない貴重な仏画で「東福寺本」といわれる。



十三仏図 Jusanbutsu-Zu ▶

室町時代初期15c 徳島県指定文化財

十三仏は忌日法要の本尊。その成立は十王に本地仏があてられ、後に三仏が加わり十三仏となる。本図の添え書に忌日、年忌、十王、十三仏が画かれているが、まだ蓮上王・抜苦王・慈恩王の三王は当てられていない。昭和62(1987)年4月3日指定。



▲五大明王 Godaimyouou

室町時代 15c

五智(五仏)如来の教令輪身として配置される明王で、中央に不動明王、東南に降三世明王、南西に軍荼利明王、西北に大威徳明王、東北に金剛夜叉明王である。この画は、降三世と軍荼利が逆になっている。



▲釈迦十六善神 Syakajuuroukuzenjin

江戸時代 19c

大般若経転読法要の本尊。釈迦如来を中心に、文殊、普賢両菩薩を配し、般若守護の十六善神、玄奘三蔵、深沙大将、法涌菩薩、常諱菩薩が左右に画かれる。弘化元(1844)年作。



▲熊野権現影向図 Kumanogongenyougouzu

江戸時代
熊野本宮証誠殿(熊野権現)の本地仏の阿彌陀如来が、紫雲の中に現れたものである。京都の檀王法林寺の熊野権現影向図(重文)と図様が同じである。

▲前庭 Mae-Niwa

当寺には三つの庭園がある。その1つは本堂正面の枯山水の庭で、本尊不動明王の種子(梵字)ㇿカーン字の形で地割りした曲水の庭である。正面に不動三尊と山号五剣山を現し、蓬莱山や宝舟も置き神仙思想も入れた庭。庭内には銀モクセイの古木(幹周り1.7m)や元禄3(1690)年の石燈籠、句碑がある。その2は本堂南面で巨石とさつきの古木と苔の庭。その3は本堂裏で滝と泉水の庭、鎌倉時代の四方仏のつくばいと、エビネランが上方へ遊歩道沿いに1000株と、シャクナゲがある。

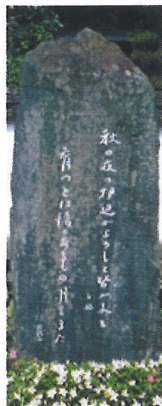


▲さつき Satuki

樹齢250年以上といわれる。高さ3m 広がり5m。

▼句碑 Ku-hi

当寺を訪れた俳人が揮毫された句碑が多くある。吟行、句作に訪れる俳句愛好者が多く吟行の俳句寺とも言われている。



右 小山 白鶴

Koyama Hakuyuu
(1895~1981)

新潟生、徳島市住。ホトトギス同人、「祖谷」創刊主宰者。

左 粟津 松彩子

Awazu Syousaisi
(1912~2005)

京都の人。ホトトギス同人、日本伝統俳句協会参事、「松彩子句集」「月牙」「あめつち」など。この句は昭和52(1977)年にも「ホトトギス」誌の巻頭に発表された作である。



右 青藤 梅子 Saitou Umeko

(1929~2013)

阿南市羽ノ浦町の生まれ、徳島市住い。本句で第10回現代俳句女流賞受賞、俳誌「青海波」出版主宰者となる、徳島新聞俳壇選者、句集多数出版。

左 岡田 麦風 Okada Bakuuu

(1925~2008)

つるぎ町貞光の人。ホトトギス誌の誌友。祖谷同人、句集「麦の花」出版。



▲泉水の庭 Sensui-no-Niwa



▲本堂全景

本堂 Hondo 国登録有形文化財

天保4(1833)年方丈、庫裡併設で東大寺を模して建立。周囲に下屋を廻らし、正面に唐破風(からはぶ)造銅板葺の玄関を構える。木造平屋建寄棟造本瓦葺 桁行26.2m 梁間13.1m。

沿革 The history of Toufukuiji

五剣山宝光院東福寺と称し、本尊不動明王をまつる。真言宗御室派で総本山仁和寺に属す。縁起では、神亀元(724)年忌部大祭主玉瀧宿禰が忌部神社の法楽として、法福寺を建立、さらに、大社の東西に寺を建て、後東寺を東福寺と改め、忌部別当としたという。

また、弘法大師が巡錫の時、南山に宝剣が下るのを見て、不動明王を刻み本尊として、弘仁3(812)年に開創したとも伝う。

天正10(1582)年長宗我部元親氏の兵火に罹り、慶長2(1597)年僧宝光が中興して宝光院とした。

文化2(1805)年1月消失、同3年吉良より現地に移転、天保4(1833)年再建し、現在に至る。

明治7(1874)年12月当寺に公立の端岳小学校を創立、同32年長瀬尋常小学校に高等科設置の時、高等科を当寺に置いた。

平成元(1989)年12月新四国曼荼羅霊場八十八ヶ所が開創され、第70番札所となる。

平成2年11月美術館建立。

平成16年10月中興407年記念事業として、本堂屋根改修、鐘樓堂・庫裡建設が落成した。

平成17年7月小学生の三日坊主修行10周年記念に子供達の健やかな成長を祈って、子育て観音を建立。平成24年2月23日東福寺本堂が、国登録有形文化財に登録。

平成24年12月末、護摩堂建立。



▲本堂内陣 Hondo Najin

本尊 不動明王 脇侍 地藏菩薩・弘法大師。下段に愛染明王と大黒天をまつる。

山門 Sanmon

町指定有形文化財

明治29(1896)年大工切上(藤原)勇吉、彫刻は脇町洋原の彫師9世三宅石舟斎、和漢折衷の入母屋楼門造、本瓦葺、間口3間(6.5m)、奥行2間(4.5m)の「三間一戸」形式。昭和51(1976)年4月1日指定。

▲護摩堂 Gomado

平成24(2012)年12月末建立。木造寄棟造本瓦葺 桁行7m 梁間6m。本尊 不動明王 脇侍 毘沙門天 弁財天



▲聖観世音菩薩・雷神・風神 Syoukanzeonbosatu Raijin Huujin 北村西望 Kitamura Seibou (1884~1987)

長崎県の人。明治45(1912)年東京美術学校彫刻科卒業。大正4(1915)年第九回文展初入選。同8年第一回帝国美術院展覧会審査員歴任。同10年東京美術学校教授。同14年帝国美術院会員。昭和30(1955)年長崎平和記念像完成。同33年文化勲章・文化功労賞受賞。同44年日展会長。103才没。聖観世音菩薩・雷神・風神共晩年の作。



◀懸仏 Kakebotoko

鎌倉時代中期 13c
金銅如来坐像、総高12.2cm。
古くは御正体と呼ばれ、10世紀頃から行われた鏡像が発展したもので、神仏習合思想等も加わって、藤原時代から江戸時代まで盛んに製作し寺社に奉納、鏡面に神仏等を表したもので、後に、円形の銅板、木板に半肉の仏像を紐又は、ほぞで止め壁面等に懸けて礼拝した。この懸仏は金銅にて台座とも一連に作る。



◀釣燈籠

Turi Tourou
総高53cm 室町時代
燈籠は大別して置燈籠と釣燈籠。この燈籠は鉄製の八角形鍛造板金造りで、宝珠に釣環、笠、火袋、宝台、脚からなっている。



◀タイ国の仏陀(釈迦如来) Thai-Buddha

仏像は、スコタイ様式と呼ばれ、柔和でなだらかな体躯で、結跏趺坐して降魔印を結び、肉髻の頂上に蓮華の蕾形の火炎形ラッサミーという頭上に見られる突起物で、釈迦の頭上から出ていたとされる炎・光を表わすものを付けられるようになる。また、インド美術に前例がない釈迦の遊行像(歩行像)が創作されたことも注目される。

▶鏡鉢 Nyou-Hati

元禄16(1703)年 江戸時代
古くからの法業の鳴器。響銅鑄造後、鍛造を加えて作る。この鏡鉢には次のような銘文がある。
「奉寄進鏡鉢 為傳峯授閉菩提 阿州 美馬郡西端山 東福寺什物」施主丸居村七左衛門 元禄十六癸未十一月六日 京堀川筑後大掾常味作」



◀笈 Oi

江戸時代 19c

桐製。高176.0cm

幅48.5奥行36.0cm

巡礼行者が、札所・霊場を巡拝する時、仏像や書物物品を入れた笈を背負って行く。桐製で、弘法大師坐像(安政2(1855)年)を中央にまつり、扉に四天王を設け、その上の中心に金剛界大日如来、左に弥陀三尊、右に薬師三尊、前に金仏の釈迦如来像四体安置。最上段に、富士山と日輪月輪、中央に仙元大菩薩の刻印の銅板が貼付。



◀御室御所御支配 Omurogosyogoshihai

文久2(1862)年

長さ38.0cm

御室御所(仁和寺)が、六十六部として允可した木札。裏は発行年号と発行番号、住所、氏名、執達所印の焼印が押されている。





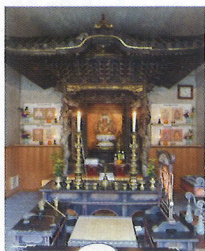
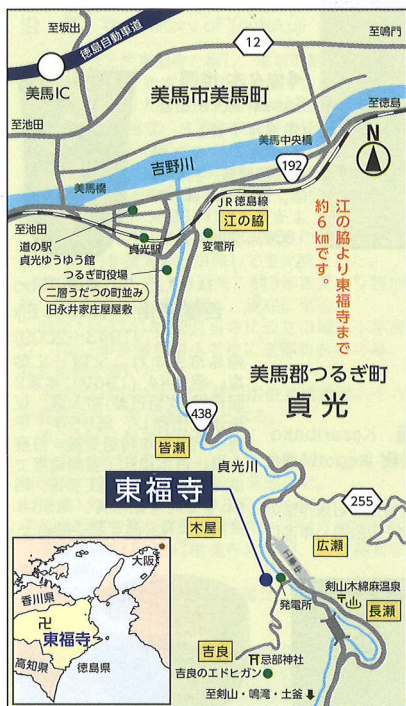
◀精進料理 Syoujin-Ryouri

精進料理は、一心に仏道を修行する人の料理で大自然の心、人間の心、物の心が一体となり、ものを生かす心で五法、五色、五味の組み合わせを大切に、季節感を出して作る料理。当寺では、全て手料理の二膳で、特に生鮓料理を特徴としている。予約制(要問合せ)。冬の期間(12月～2月末)休業。



◀子育て観音

Kosodate-kannon
三日坊主修行10周年記念に当たり、平成17(2005)年7月30日開眼、聖観音立像を建立。花崗岩製、像高5m、全体高8m。



▲子育て観音内陣

Kosodate-kannon Najin
宮殿に本尊・如意輪観音、両側に干支守り本尊をまつる。



▲九重層塔 Kuju-soutou

鎌倉時代 13c
この層塔は十三層塔であったが、中四層が欠損している。同じ大きさの九輪、宝珠の形、笠の軒の垂直・反り、四方仏の大きな月輪等に鎌倉時代の特色が見られる。高さ3.6m。

〒779-4109 徳島県美馬郡つるぎ町貞光字木屋341番地

東福寺・東福寺美術館

TEL・FAX 0883-62-2207

<http://www.toufukuji.or.jp/>